№10

評 様式10

課題対応取組報告書　【共通】

名称	住吉区北地域包括支援センター
提出日	令和7年6月6日

カテゴリー（※主なものをひとつチェック）	☑ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（　　）	

活動テーマ	ねこ会議～ペットを飼っている高齢者への援助におけるネットワーク構築や 新たな社会資源創出に向けた意見交換～
地域ケア会議から見えてきた課題	・医療や介護を必要とする高齢者が「ペットを放っておけない」と言い、必要な入院治療を拒否する。また介護施設等に入所する際に、自宅にペットが取り残されることになってしまい、ケアマネジャーがその世話を任されるなどしてケアマネジャーが困ってしまう。 ・高齢者が年金や生活保護費があっても、ペットのために使用してしまい、生活が困窮してしまう。 ・高齢者が自宅に野良猫を引き込んで、劣悪な環境で生活をしている。 ・引き取ってきた猫が子猫を生んで、多頭飼育となり、十分な世話ができなくなってしまう。 などの事象が当センターが対応した事例の中にあり、日頃からペットとの適切な付き合い方、飼い方について、飼い主(特に高齢者)やその家族に啓発が必要であり、時には支援が必要である。また、ケアマネジャーやヘルパー等が担当している高齢者が、こうした状況に置かれている際に、チームで適切に支援ができるようになる必要がある。
対象	ペット飼育をしている高齢者(障がい者)の支援者、介護支援専門員　等
地域特性	・住吉地域は、地域連合が27町会で構成された大所帯であることが特徴的である。住民は新旧混合で市営住宅も多いが、帝塚山や万代池周辺の高級住宅街も圏域に含み、所得層も幅広い。大阪急性期総合医療センターおよび関連施設、福祉事業所も多い。 ・東粉浜地域には戦火を逃れた古い家や長屋が立ち並び、世代間で住み続けている住民も多く、市内屈指の地域力の高さも特徴的。南海電鉄、阪堺線など天王寺や難波へのアクセスも便利。商店街も賑やかさを保ち、活気がある。通所、入所型の福祉施設は殆どない。 ・長居地域の一部のみが圏域に入るが、文化住宅や単身向けアパート、市営住宅が大半で「独居、生活保護、何らかの生活課題」というキーワードが多く見られる。 ・大阪市では高齢者の単身世帯は非常に多いが、担当圏域では市営住宅などのペット飼育禁止という住宅が多かったり、単身者向けのアパートなどが多く、近隣との関係が希薄な世帯が比較的多い。そうした中で、高齢者とペットのみの暮らしとなってしまい、孤立を深め、発見された時には支援が困難になってしまっていることがある。
活動目標	①福祉行政と動物愛護行政と連携し、高齢者や社会的弱者が自己実現の一つとしてのペット飼育を援助できる仕組みを考える。 ②ペットを飼っている高齢者への援助における社会資源とのネットワーク構築や新たな社会資源の創出。 ①②を大きなテーマとして、参加団体間の連携を深め、それぞれの領域での価値観などをすり合わせることでより強固なネットワークの構築と各団体の活動を後方支援できる環境を作る。
活動内容（具体的取組）	①定例会　5/15(10名)、7/16(10名)、9/18(10名)、11/20(5名)、1/21(9名)、3/18(7名) ②定例会では情報交換や、ネットワークづくりを中心に実施。今年度は、他区より参加希望をいただいたり、住吉区からも新たに区役所担当係長に参加していただけるようになり、大阪市独自の助成事業(多頭飼育崩壊への対策)についての情報提供をいただいたり、つながる推進員に参加いただいたりと、よりネットワークが広がった。 過去に行ったペットフードドライブについては、あと少し残っている物品を必要な方に適宜手渡す形で運用、年度内で終了とし、会議の構成団体となってくれているNPO法人に寄付という形で整理する。 参加者間で個別ケースや新制度等についてさまざまな議論を繰り返し、それぞれの価値観について知ったうえで、課題解決に向けた協議を行った。
成果（根拠となる資料等があれば添付すること）	○議論の中で情報交換されたペット関連の社会資源について、一覧を作成し、会議内で共有、相談対応に活用している。 ○関心をもって参加してくださる方が拡大した。 ・住吉区区役所担当係長　・住吉区つながる体制推進員　・浪速区区役所担当係長　・浪速区つながる体制推進員　・門真市居宅介護支援事業所 (従来からの参画団体　住吉区社会福祉協議会、住之江区社会福祉協議会、住之江区加賀屋粉浜地域包括支援センター、大阪市健康局健康推進部　等) ○大阪市独自の助成事業(多頭飼育崩壊対策)について、学ぶことができた。 ○取り組みによる副産物的な効果として 担当圏域を越えてペット関連の相談が入ってくることが増加している。2024年度7件。軽微なものや口頭で対応するなど、記録化できていないものを含めると10件を超える。
今後の課題	○取り組んでいることで副産物的に入ってくる相談内容の多くは、飼い主が入院や施設入所などで引き取り手のないペットが残されている状況を、放置できずに介護事業所が悩み、困っている状況となってから連絡が入っている。もう少し早い段階で飼い主が考え、対策を検討できるようにしていきたい。センターとしては、こうした相談内容や猫の生態などを踏まえて、ケアマネジャー等と一緒に学習する機会を作っていく。その結果、ケアマネジャーが担当する高齢者と関連した話題について話をしてみるきっかけを作っていきたい。 ○大阪市独自の助成事業について、住吉区役所担当係長に協力して周知活動を行っていきたい。 ○令和7年度より、住吉区社会福祉協議会が構成団体から離脱されることになった。その他の参加者も業務の都合などで参加が不安定な方もいるが、地域で起こっている問題について言語化するこの場を柔軟に継続していきたい。

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター運営協議会開催日	令和7年7月24日(木)
専門性等の該当（※該当個数は問わな	☑ 地域性　☑ 継続性　☑ 浸透性・拡張性　☑ 専門性　☑ 独自性
評価できる項目（特性）についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・高齢者とペットの問題は難しい。飼い主自身が今後どうしていくのか対策を考える必要があると思う。 ・日頃から関わる支援者が、飼い主に声かけを行うことで早くにペットのことを考えられるようにする。 ・例えば、犬であると"犬とも"といったサークルがあり、飼い主が入院した時などは代わりにサークル内のあずかってくれるため、可能であればサークルづくりをするとよい。